

砂漠に「仮想横須賀基地」

中国、中距離弾開発を加速



軍事編 上

古代中国シルクロードの要衝として栄えたオアシス都市・敦煌。その西方約100キロのゴビ砂漠に、3隻の軍艦が描かれているのを

大佐の目を釘付けにしたのは、「砂上の軍艦」の配置だった。鏡に映したように反転させれば、米海軍横須賀基地（神奈川県）の構造とより二つだったからだ。軍艦に見立てた三つの

標的の真ん中には、ミサイルの着弾跡とみられるクレターもあつた。大佐らは17年に発表した報告書「先制攻撃…アジアでの米軍基地への中国のミサイル脅威」で、同じ実験場に米空軍嘉手納基地（沖縄県）の戦闘機駐機場にそ

つくりな標的が描かれているとも指摘。「西太平洋の米軍の軍事力を支える前方基地への中国軍のミサイル攻撃は、現実味を帯びている」と警鐘を鳴らした。

米国防総省のアジア政策に強い影響力を持つ同氏は、旧知の日本政府高官や自衛隊幹部に、「日米は、奇襲攻撃の被害を受けないよう、手段を講じる必要がある」と危機感を伝えた。

米国の衛星が捉えていた。

米海軍のトーマス・シユ

ガート大佐らは2013年

に撮影された写真を分

析、映っているのはミサイルの精度や衝撃を試す中国軍の実験場と結論づけた。



中国のミサイル衝撃実験場（ゴビ砂漠）



米軍横須賀基地（神奈川県）

2014年3月時点の衛星画像

米専門家は、中国軍の実験場の形状が米軍横須賀基地の港の輪郭を線対称にして模したものだ指摘。3隻の艦船に見立てた標的の中央にミサイルの着弾跡とみられるクレターがある。グーグル・アースの直近の写真では、実験場の標的はすでに撤去されている

し、冷戦終結の契機となった。中距離ミサイルは到達時間が短く探知が難しいため、相手が発射したとの誤認識などで偶発的に核戦争に発展する懸念も高まっていた。条約では、核弾頭だけでなく通常弾頭を搭載する射程500～5500キロの弾道・巡航ミサイルを全廃するとした。

今年2月1日、トランプ米政権は米口の中距離核戦力（INF）全廃条約からの離脱をロシアに通告した。「冷戦終結」の象徴だった条約が失効すれば、米口は中距離ミサイルを配備できるようになる。

トランプ政権で昨年まで国防次官補代理を務めた、国家防衛戦略の策定を担ったエルブリッジ・コルビー氏は「離脱の一義的理由はロシアだが、最大の理由は中国だ」と明言する。

米「防ぎきれぬ」INF離脱

米国防長官政策顧問だつ

米国防総省のアジア政策に強い影響力を持つ同氏は、旧知の日本政府高官や自衛隊幹部に、「日米は、奇襲攻撃の被害を受けないよう、手段を講じる必要がある」と危機感を伝えた。